



## 鬼は外！福は内！令和初の節分ですね♪

節分はいままで2月3日でしたが、  
来年から2月4日が節分になるのはご存知でしょうか？

ぜひ、令和最初で最後の「2月3日の豆まき」で  
厄除けをして気持ち良く春を迎えましょう。



### ペットのいるお家での節分・バレンタインに注意！

節分で豆をまいたり、  
バレンタインでチョコレートを作って交換し合ったりと、  
楽しい季節になりました。  
しかしペットがいるお家では油断大敵！  
愛するワンちゃん、猫ちゃんの誤飲事故が多数報告される時期でもあります。  
そこで今回はこの時期起こりえる身近な危険をご紹介します。

## 節分の「豆」に注意

犬猫は人間とは消化できるものが違います。  
生の大豆を愛犬・愛猫に与えるのはやめておきましょう。

数粒なら食べても問題ありませんが、万が一食べ過ぎてしまい、嘔吐などの症状が続く場合は動物病院で診てもらいましょう。

大豆は与えてはいけなかったの！？  
と不安に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、  
「トリプシン・インヒビター」の作用を消す方法があります。

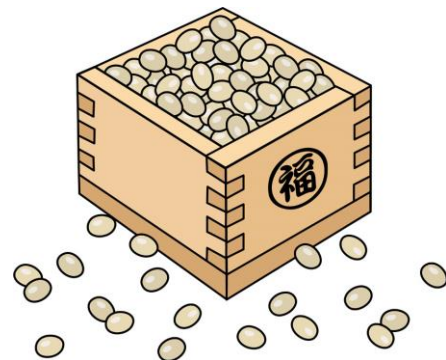
それは、大豆を長時間加熱もしくは発酵させた、  
豆腐や納豆、煮豆などの加工食品にしてしまうことです。

健康食品としても注目されている納豆は  
人だけではなく犬猫にも良い効果をもたらしてくれるといわれており、

ビタミンB2、ビタミンB6、ビタミンE、ビタミンKなどのビタミン類、  
食物繊維、カリウム、マグネシウムなどを含みます。

またナットウキナーゼには血栓を溶かす作用があり  
心臓の病気の予防にも効果的です。

食べ過ぎは禁物ですが、普段の食事に適量加えてうまく活用していきましょう。



## バレンタインの「チョコレート」に注意

ワンちゃん、猫ちゃんにチョコレートを与えてはいけません。  
チョコレートにはテオブロミンという有毒成分が含まれています。

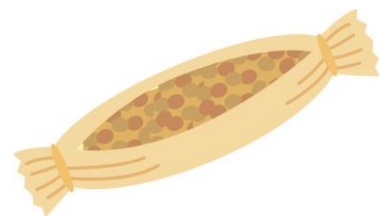
人間はテオブロミンを簡単に代謝できますが、  
ワンちゃん、猫ちゃんの代謝速度ははるかに遅く、  
その結果、蓄積して体内の毒性量が上がります。

テオブロミンを沢山摂取すると、  
筋肉の震え、けいれん発作、不整脈、内臓出血、心臓発作を引き起こす場合があります。

テオブロミン中毒を起こし始めた時に見られる症状として  
激しく落ち着きがなくなります。

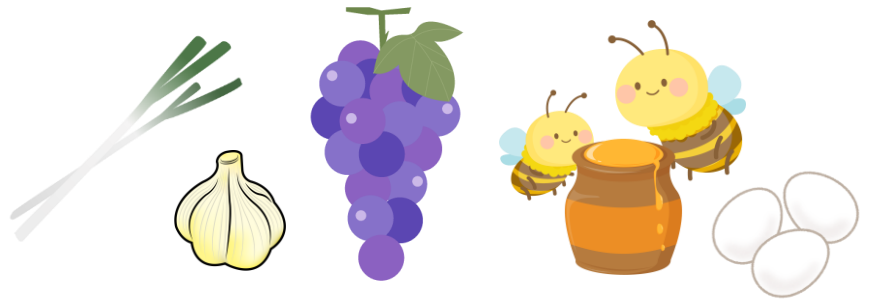
小型犬の場合、板チョコ1枚分で致死量になる可能性もあり危険です。

テオブロミン中毒の一般的な治療法は、  
摂取して2時間以内に嘔吐させることです。



## 他の食べ物にも注意

- ネギ類
- ブドウ類、レーズン
- チョコレート、カカオ類
- ニンニク
- はちみつ
- 生の卵白 など



このように、人にとって問題がなくても動物にとって危険な食べ物は意外とあるので注意が必要です。

万が一、ペットが大量に誤飲したかもしれないと心配な時、それが疑われる時、そして中毒のような徴候が見られる時は、ただちにご来院ください。

一番の予防は、ワンちゃん・猫ちゃんが自由に口に出来るような場所には、人の食べ物を置かない事です！

## 学べるワンニャン語クイズ

問題1：愛犬が顔中をなめてくるときの気持ちは？（答えは次のページ下です。）

- ①お腹すいたなあ
- ②甘えたい気分だワン
- ③運動させてほしい



問題2：飼い主が外出すると鳴き続ける猫ちゃん。その気持ちは？（答えは次のページ下です。）

- ①一人は寂しいよ
- ②不安だなあ
- ③お腹すいた



## プチ情報

## シェパード犬、猫を追って木に登るも下りられず救助 米

米カリフォルニア州トレーシーで、猫を追って木に登ったジャーマンシェパードが木から下りられなくなってしまい、消防士が出動して助け出す騒ぎがこのほどあった。

2歳になる犬の名前は「ベビー」。飼い主によると、猫に強い関心を示す性癖があるという。



出典 <https://news.livedoor.com/>

画像では、木のとっぺんにある枝の端部分にネコがうずくまり、幹の上にベビーがいて向き合っているような様子が収められている。

出動した消防士は今回のような救助は初めてと説明。最初は冗談かと思ったと振り返った。

猫はその後、無事に木から下りていた。

## 学べるワンニャン語クイズの答え

問題1：② オオカミ時代は母親の口回りをなめて食べ物を要求していたので、そのなごりで子犬も母犬や飼い主の顔をなめます。

しかし実際には犬の場合、食べ物の要求というより、甘えや愛情を表現しているようです。

問題2：② 一般的に猫は単独で生活する動物なので、犬とちがって1匹でも寂しいとは思いません。

鳴き続けるのは寂しいというより不安を感じている可能性があります。

お出かけ前にトイレを綺麗にしたり新鮮なフードと水を用意したりして、快適な留守番をさせてあげましょう。

## プチ情報

### 猫に危険な香りがある？冬の生活に潜む猫にとっての危険

今回は、部屋を閉め切りがちな冬を猫が快適に過ごす方法を、キャットシッターの内藤さんに教えてもらった。

#### ■猫は柑橘系の香りが苦手、アロマウォーターやルームフレグランスは危険？

人間社会でも香害という言葉が使われるようになったが、猫にとっても害だろうか。

「猫は人間の6~7倍の嗅覚を持っており、臭いにとっても敏感です。刺激のある臭いは好きではないですし、それらのほとんどが猫にとって害になるものと考えていいでしょう。

猫用のタオルやベッドには香りの強い洗剤や、柔軟剤を使用せず洗濯するとよいでしょう。人が使うものも、できれば香りが長く続く強い香りのものは避けましょう。微香性のものであればそれほど問題はないでしょう」(内藤さん)

微香性または無香の洗剤や柔軟剤もあるので、猫の愛用品に香りをつけずに洗濯することは可能だ。

「猫は柑橘系の匂いが苦手です。柑橘系の皮は人にとってはさわやかでよい香りがしますが、この酸っぱい香りの中には『リモネン』という猫には有害な物質が含まれているので、柑橘類を与えないようにしましょう」(内藤さん)

玄関や部屋にルームフレグランスがある場合はどうだろうか。

「アロマウォーター、ルームフレグランスにはアロマ成分(濃縮された植物エキス)が含まれています。

猫は人間と違い、アロマ成分を分解する機能が大変低く中毒を起こす原因になります。

特にアロマセラピーで使われるエッセンシャルオイルや、アロマキャンドルは非常に危険です。一見大丈夫そうに見えても、長期間使用していくうちに成分が排出されず、少しずつ体に蓄積されるともいわれています。

猫を飼っている家では芳香剤やアロマオイルなど匂いを発するものを避けるほうがよいでしょう」(内藤さん)

## ■灯油や結露にも気を付けて

冬になるとヒーターに灯油を使う人もいると思うが、その臭いは人間にとっても苦痛だ。

「灯油の臭いはもちろんですが、猫が舐めないようにすることが大切です。猫は灯油を舐めてしまうと、灯油中毒で死に至ることもあります。毛や皮膚に付着した灯油が揮発して、それを吸い込むだけでも呼吸困難になってしまうこともあるので、猫のいる場所で灯油は使わないのが無難です」（内藤さん）

足の裏をきれいに舐める習性がある猫。  
灯油を使う家庭ではストーブの給油時にこぼれた灯油を  
飼い猫が舐めてしまわないように気を付けたい。

内藤さんは、窓の結露にも注意が必要と教えてくれた。

「猫は器に入れた新鮮なお水より、なぜか水槽の濁った水や、お風呂場の床など、人が意外に思う場所でお水を飲むのが大好きです。窓についた結露を舐めるのも好きな猫が多いです。

そのような猫がいるおうちで、  
ガラスクリーナーなど合成洗剤を使用して窓掃除をすると、  
水分と一緒にクリーナーの成分も猫が舐めてしまいます。  
猫が窓を舐めないように工夫するか、  
クリーナーを使わずにお掃除すると安全です」（内藤さん）

## ■ボディクリームを塗ったら猫を触らない

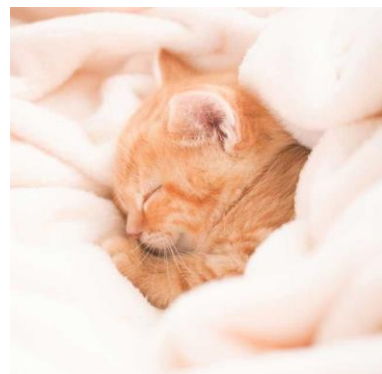
乾燥の季節だとハンドクリームやボディクリームを塗る人もいるだろう。  
香りに敏感な猫は大丈夫なのか。

「これは不思議と猫の好き嫌いが分かれるようです。  
ハンドクリームを塗った手を好んで舐めたがる猫もいます。  
でもクリームの成分には猫に有害なものもあるかもしれないので、  
舐めさせないようにしましょう。

また猫は自分と違う匂いがする場所を舐めて、臭いを消そうとする習性があります。  
クリームをご自分の体に塗ったときは、猫を触らないようにしましょう」（内藤さん）

猫は香りに敏感だけでなく、  
その成分に弱いことが分かった。

冬の部屋には予想以上に猫に迫る危険があった。  
飼い主さんには、気をつけて冬を過ごしてほしい。

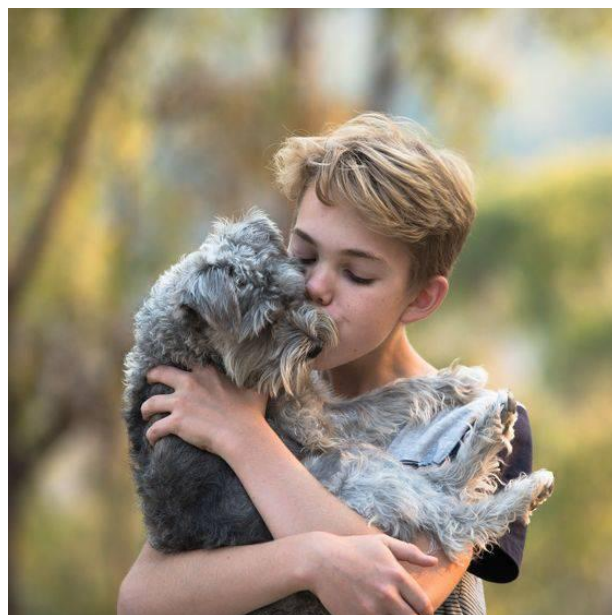


出典 <https://news.livedoor.com/>

幻聴や幻覚を伴う統合失調症の発症リスクに関する過去の研究で、「盲目であることが統合失調症から身を守る」ということが明らかになっています。

アメリカの研究チームが行った新たな調査によって、「幼少期に犬を飼っていた人は統合失調症になるリスクが少なかった」ということも判明しました。

統合失調症の発症リスクを高める原因については、遺伝的な要因があるほか、



出典 <https://gunosy.com/>

子ども時代の家庭や学校における心理社会的なストレスも要因の一つといわれています。

そこで、研究チームは民間の精神病院と協力し、統合失調症や双極性障害の発症リスクと幼少期に飼っていたペットの関連について調査しました。

研究では、病院で治療を受けている 396 人の統合失調症患者と 381 人の双極性障害の患者、対照群として 594 人の健康な人々を対象に調査を実施。

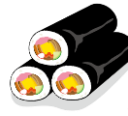
研究者は被験者に生まれてから 12 歳までの幼少期に犬または猫を飼っていたかどうかを尋ね、もしペットを飼っていた場合は最初にペットと接触した時期と、最後にペットと接触した時期を回答してもらったとのこと。

調査の結果、被験者の半数以上が幼少期に犬を、3 分の 1 近くが幼少期に猫を飼っていたことがわかりました。その他のリスク要因を排除して結果を分析したところ、幼少期に犬と接触していた人は、統合失調症になるリスクが 24% も低かったことが判明。

また、生まれた時点ですでに犬を飼っていた人においては、統合失調症になるリスクが 55% も少なかったと研究チームは述べています。

研究を率いたジョンス・ホプキンス大学のロバート教授は、「犬が統合失調症に影響を及ぼすメカニズムはまだわかっていません」と述べつつも、人間の腸内細菌などの要素が統合失調症のリスクに影響を与えることを指摘。

犬を飼っていたことにより、人間の腸内細菌や保持する微生物の種類が変動して、統合失調症になるリスクを下げている可能性があるとして述べました。



## 本の広場

### 猫のおふくちゃん (やじまけんじ著)



出典 <https://www.amazon.co.jp/>

とっても心あたたまる漫画です。

猫好きコミュニティの「フェリシモ猫部」で人気のWEB連載漫画がにゃんと！書籍化しました。

和菓子屋を営むおばあちゃんのおうちで暮らす、猫のおふくちゃんの物語。

おふくちゃんはごほうびのおはぎを楽しみに働いています。

おふくちゃんの日常は子どもらしくもあり、猫らしくもある。

やさしいおふくちゃんもらったおはぎをおなかをすかせた地域猫さんにあげることもあります。

読みごたえたっぷりのフルカラー本は描きおろしやイラストも満載です。

**おふくちゃんのやさしさに出会ったら、  
みんな元気になれるはず！**